

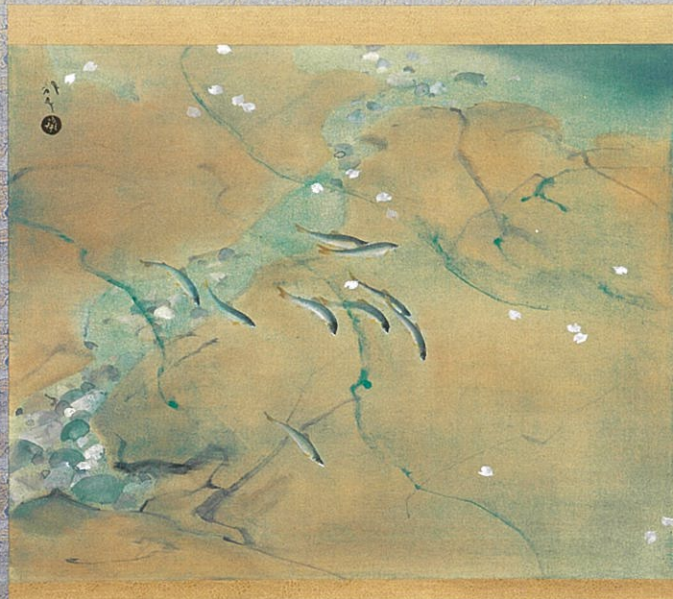
大観・玉堂・龍子展

— 循作「雪月花」「松竹梅」によせて

大観




玉堂



龍子


平成28年
10月7日(金) —
11月13日(日) ※会期中無休

パラミタミュージアム2階展示室

開館時間：午前9時30分～午後5時30分
(最終入館は午後5時まで)

入館料：一般1,000円(4枚セット券3,000円)／
大学生800円／高校生500円／中学生以下無料

主催：公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム
後援：中日新聞社、伊勢新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、
NHK津放送局、三重テレビ放送

特別協力：大田区立龍子記念館

関連イベント 当館学芸員による列品解説
日時：10月16日(日) 午後2時～

 paramitamuseum
公益財団法人岡田文化財団

大観・玉堂・龍子展

— 循作「雪月花」「松竹梅」によせて

明治以後の日本画界を牽引してきた3人の巨匠たちは、それぞれ独自の道を歩みながら、主義主張を超えた交流を図っていました。その一つに1952年からの6年間、東京の画商兼素洞の主催による「雪月花」「松竹梅」循作展への共同出品があげられます。この展覧会は三つの画題を同じ3人の作家に割り振り毎年順番に画題をずらして3年で全体が完成するという趣向の物でした。

パラミタミュージアムでは2004年、3人の循作「雪月花」「松竹梅」三幅対2組を収蔵したことから、以後この3人の巨匠たちの作品を順次収蔵してまいりました。現在その数は大観の日本画15点、工芸品9点、玉堂31点、龍子3点を数えます。また大観ゆかりの工芸品はその多くが日本美術院の経営に尽力した辰澤延次郎との交流の中で、大観から辰澤家に贈られたもので、同じく2012年辰澤家より当館に直接譲渡されました。

今回は大田区立龍子記念館の全面的なご協力により、龍子の代表作9点をご出陳いただき3人の画業を一望します。



横山大観《帰去来》
大正6年(1917)



横山大観《松下清談》
大正7年(1918)



横山大観《打掛 紅白梅》 大正5年(1916)頃



横山大観《紅梅》 大正5年(1916)頃



川合玉堂《麦刈る水車場》 昭和26年(1951)頃



川合玉堂《柿紅葉》 昭和26年(1951)頃



川合玉堂《鶺鴒》 昭和19年(1944)頃



川端龍子《飛翔》 制作年不詳

© Minami Kawabata & Ryuta Kawabata 2016 / JAA1600150



- お車をご利用の場合＝東名阪「四日市IC」で降りて国道477号(湯の山街道)を湯の山方面へ約6.5km。
- 無料駐車場あり(普通車100台、大型バス駐車可)
- 電車をご利用の場合＝近鉄「四日市駅」下車、近鉄湯の山線に乗り換え約25分「大羽根園駅」下車、西へ300m。
- 全館バリアフリー、車椅子準備

北勢萬古名品展 一北勢地区所蔵館の名品を集めて—

平成28年11月17日(木)～12月25日(日)

独特の質感の急須や茶碗で全国に知られる萬古焼は、桑名の豪商・沼波弄山(ぬなみ・ろうざん/1718～1777)が、作品が未永く残ることを願い捺した印章「萬古不易(ばんこふえき)」がその名の由来といわれています。今回は三重県北勢地区にある萬古焼所蔵館より名品を選び一堂に展示します。

協力館(五十音順)：朝日町歴史博物館、桑名市博物館